

あいち



愛知県在宅保健師会

第23号 令和3年10月

発行 愛知県在宅保健師会「あいち」
名古屋市東区泉1-6-5
愛知県国民健康保険団体連合会内
TEL 052-962-1379

発行人 丸山 路代

会長 あいさつ



愛知県在宅保健師会「あいち」

会長 丸山 路代

猛暑の中、オリンピック・パラリンピック、全国高校野球選手権大会が開催され、アスリートたちのパフォーマンスに元気をもらいました。一方で、大雨による洪水・土砂災害等の被害が全国各地で発生しています。過去に災害がないからと油断しないようにしましょう。

コロナ禍で、地域活動が縮小または中止の状態が続き、今まで参加していた人たちの健康状態を気にかけている会員もいるかと思えます。最近では、高齢者だけでなく、長期の在宅勤務による「おこもり足」も問題になっていきます。今年度も「すこやか健康教室」は開始の見通しが立たず、名古屋市の依頼で研修委員会が銭湯利用者に使ってもらおうと、お薬手帳に折り込みのリーフレットを作成しました。皆様も有効に活用してください。第二弾も作成する予定です。皆様の活動や苦労話、工夫や資料等の情報を、今後も会報で皆様にお伝えしようと考えています。昨年は研修会を全く開催できませんでしたが、今年はWeb配信で実施しました。会報に概要を掲載していますので、参考にしてください。コロナ感染者は増加の一途をたどり、八月末には感染爆発と言われるほど急増し、疫学調査や健康観察等、感染症予防対策を担う保健所等は、五月の第四波とは比較にならないほど逼迫しています。愛知県や保健所政令市は、保健師OBやIHEAT(新型コロナウイルス感染症に係る人材バンク)の登録者に協力依頼をしています。登録して現場を支援しましょう。

募集中!

人材バンク登録にご協力いただける方少しでも関心のある方は、関連資料等を送付しますので、事務局までお問い合わせください。
愛知県国保連合会 保健事業課 担当 渡邊 ☎052-1962-1379



- 会長あいさつ..... 1
- 令和3年度在宅保健師会「あいち」
通常総会(書面表決)結果..... 2
- コロナ禍における会員の活動状況..... 2

目次

- 第1回研修会【多剤投与について】..... 3
- 就労アンケート結果 / お知らせコーナー
/ 退任役員 / 新役員紹介 / 新会員紹介
/ 編集後記..... 4

令和三年度

在宅保健師会

「あいち」通常総会 (書面表決)結果



令和三年度の通常総会は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催できず、議案については、郵送による書面表決を実施しました。

会員の皆様のご協力により、会員の過半数以上の投票があり、総会は成立しました。

書面表決の結果

令和三年四月三十日現在会員数 二二八名 投票数八三名

投票者八三名全員から全議案の承認を得ることができました。

ご協力ありがとうございました。

コロナ禍における 会員の活動状況

コロナ禍で会員の方も感染拡大防止事業に各方面で活躍されています。今回は、お二人の活動状況を紹介します。

コロナ禍で気づいたこと

市原 利恵子

なにかできないか

連日、コロナ関連のニュースが流れない日はありません。特にテレビで医療従事者が大変苦労されている様子を見ると現役ではない身には何もできない自分に葛藤を覚えました。

問診を受け持つ

そんな時に、居住する町の保健センターから予防接種の問診を手伝ってもらえないかとの依頼がありました。いざとなると、現場を離れて数年が経ち、少し戸惑いましたが引き受ける事にしました。



久しぶりに住民の方と話をするうちに段々と保健師としての感が戻ってきました。高齢者の方は、今の健康問題に加え、コロナ感染への恐怖感と不安のある方が多くあります。

これからの保健事業の中に

私が就職した頃の保健事業は、結核などの感染症がまだウエイトを占めていましたが、段々と生活習慣病予防へとシフトしてきました。医学が進歩して、感染症は過去の疾病と思いついでいた気がします。そんな

折、いきなり新型コロナウイルス感染が拡大し、戸惑いは大きかったのですが、今後は、エビデンスに基づきながら、個人衛生、公衆衛生について、保健業務として新たに考える機会となりました。

新型コロナウイルス感染症対策潜在保健師として従事して

幾田 純代

愛知県は、新型コロナウイルス感染拡大による保健所業務の軽減と感染拡大防止を図るため、積極的疫学調査や健康診査等を行う潜在保健師等を一般非常勤職員として雇用しています。私は第四波のピーク

となった五月十一日から五週間、三か所の県保健所で潜在保健師としてこれらの業務に従事しました。

感染拡大防止の肝である積極的疫学調査は、濃厚接触者の特定と感染源・経路の推定、クラスターの発見が主たる目的であり、電話で聞き取りをします。人によっては、話したくない内容もあり、顔が見えない中、患者さんの体調や気持ちに配慮しながら関係を築き、聞き取りを進める必要がありました。

また、外国籍の人も多く、言葉が通じないため人を介すなど、正確な情報収集に多くの時間を要することも多々ありました。濃厚接触者がいる場合は、その人たちにも連絡を取り、健康観察や不要不急の外出自粛等の依頼、PCR検査の案内と併せ、積極的疫学調査に捕足される情報を聞き取ります。

積極的疫学調査の他、自宅療養者への電話での健康観察にも従事しましたが、病状悪化の不安だけでなく、様々な精神的な不安や苦痛を訴える方が少なくありませんでした。新型コロナウイルス感染症は人々の身体面だけでなく、精神的にも大きなダメージを与えています。一日も早い収束を願ってやみません。

【多剤投与について】



チューリップ薬局
薬剤師
水野 正子氏

医療費の増大のみならず健康被害が起きる可能性がある多剤投与について、健康サポート薬局での在宅訪問とそこから見えてきた現状と課題について学びました。

1. 在宅での薬の問題

● 残薬が多いこと。
日本薬剤師会は推計で年間四七〇億円を超える残薬があると発表

● 薬が飲めない、飲まない状況。
薬の理解不足や認知機能・身体機能の問題、助けてくれる人がいない等の原因がある。薬を飲めないだけでなく、生活そのものに支障が出ている場合が多い。多職種で連携して関わり、在宅で丁寧にフォローしていく必要がある。

● 体調変化時の服薬変更に困る。
長期処方の方は薬をやめるか増やすかを誰に相談するか、患者さん自

身が困ることが多い。

＊このような状況を改善するため、薬剤師は、訪問時サマリー、利用者さんの話や指導内容等を毎回報告書で細かく伝えている。報告書の六割に返信がある。薬剤師が「医療」と「生活」をつなぐ役割を担ってくれていると評価されている。

2. 多剤投与の問題

● 年齢と共に病気の数も薬の数も増えていく。
七十五歳以上の四分の一が七種類以上の薬を飲んでいる。薬物有害事象は薬剤数にほぼ比例して増加している。高齢者では、ふらつき、転倒の発生頻度が高い。

● 加齢に伴う消化管や肝機能、腎機能低下などの体の変化も薬剤効果に影響する。高齢者の場合、他科または複数の医療機関の受診で、処方薬の全体像が把握できず重複処方になる。多剤併用で、薬の相互作用により効き目に変化が現れる。

● 薬が増えたとリスクも増す。薬を自己調整してしまい有効域（適正な血中濃度）が保てず、体に負担になる飲み方をしてしまうケースもある。

● 意外と多い副作用に薬で対処し悪循環に陥る。

＊薬剤師は副作用が出たら、何が悪いか考える。しかし、有害事象と加齢の区別がつきにくく、本人希望の多剤服用も多いことから、薬を減らすのは困難を極める。

3. まとめ

● 自分の薬や治療に関心を持ち、お薬手帳に薬が効いた・効かないなどメモして医師や薬剤師に見せる。

● かかりつけ薬局を持ち情報を共有する。相性がある薬剤師を見つけたことも多剤投与に伴うリスク等を減らし自分自身の体や命を守ることに繋がる。

● 報告書の送付先は、法的義務は主治医とケアマネのみであるが、介護の現場で服薬に関わる事例が増え、利用者の同意を得て薬が関係するところに送っている。互いに問題意識をもつて対応していく必要がある。



研修受講の状況

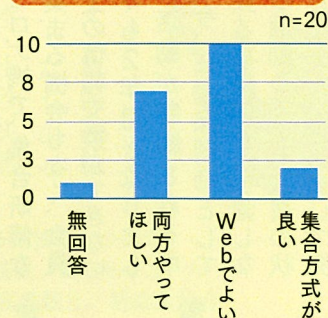
申込み者	34名
受講者	30名

受講者の中には、システムに入らなかった方もいました。アンケートに回答された方は皆さん、内容、資料とも「とても参考になった」「参考になった」と回答。

アンケート回答者(20名)の声【抜粋】

- Web研修に不慣れなため、操作について不安だった。
- 自宅にいて研修ができるのも良い
- 集合方式では講師への質問や会員の交流ができ士気が高まるが、非常事態の場合は、オンラインが望ましい。
- 研修会のDVD貸し出しがあったらうれしい
- 声が聞きづらく、時々画面が暗くなったり明るくなったりする時があった。

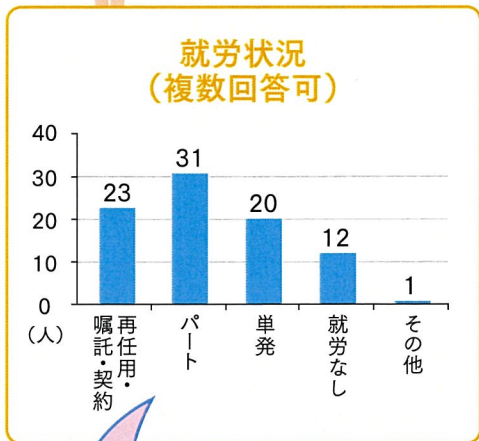
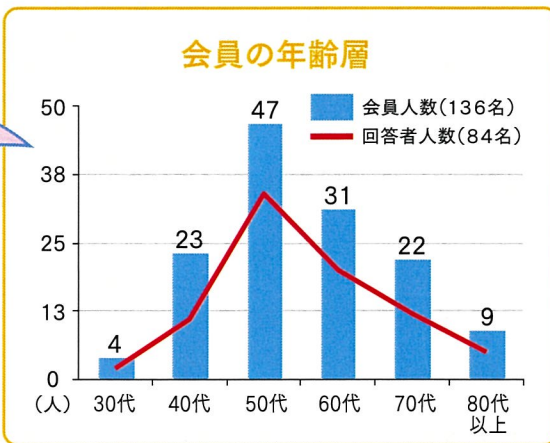
今後の研修会の希望



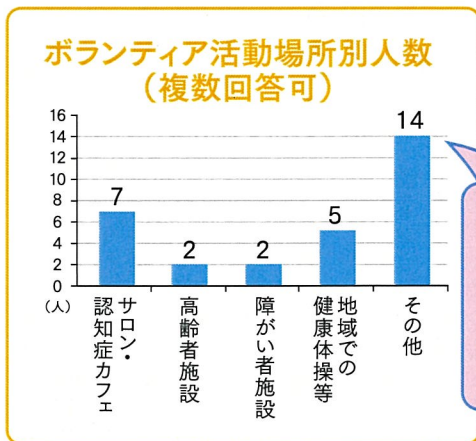
在宅保健師就労状況 アンケート結果



会員の年齢層は、ほとんど変化がありませんでした。



回答者のうち、86%が何らかの形で就労しています。



ボランティア活動のその他では、認知症・介護相談、子ども食堂等でした。

新役員紹介

夏目 昭子

幾田 純代

宮島 まち子

退任役員

役員としてご尽力いただきありがとうございます。

- 幹事(編集)市原 利恵子
- 幹事(編集)山口 千鶴
- 幹事(研修)赤羽 治子

お知らせコーナー

今後の研修会日程

第2回

「予防医学としての食を学ぶ
～発酵食品のパワーと魅力～」

- 令和3年10月15日(金)・18日(月)
- 午後1時30分～3時

名古屋大学環境医学研究所
助教 伊藤 綾香氏

編集後記

コロナ禍で、集合研修など集まる機会もなく、会員同士の情報交換ができない日々も2年目となりました。活動が制約される中で、今、在宅保健師として出来る事は何か、模索しながら活動している会員の状況を伝えたいとの思いで発刊しました。

新会員紹介

- 名古屋市 日高 橘子
- 一宮市 柴田 悦代
- 一宮市 小笠原 恵梨
- 豊橋市 夏目 昭子
- 蒲郡市 幾田 純代

第3回

「おいしく食べ続ける為に、
日頃から行える口の体操」

- 令和3年12月9日(木)・10日(金)
- 午後1時30分～3時 予定

藤田医科大学
医療科学部 リハビリテーション学科
准教授 稲本 陽子氏

※いずれの研修も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、インターネットによる配信で行います。また、会報23-2号に概要を掲載します。